

RST・NST 共同による誤嚥性肺炎患者の 再発予防のための取り組み

1. 研究の背景

平成 28 年度の厚生労働省報告によると、肺炎は死因別では 2011 年度に一時悪性新生物、心疾患に次いで 3 位となっており、2012 年には入院肺炎症例の 7 割が誤嚥性肺炎であると報告されている。

当院において、誤嚥性肺炎患者は、一般病床、地域包括ケア病棟の入院件数が 250 件にも上っており、再発を繰り返している症例も数多く存在する。また、再発する症例では、食事開始時や不顕性誤嚥による再発例を認め、入院期間が長期化し、ADL の低下や、全身状態の悪化といった悪循環に陥る可能性が高く、退院調整が難航することもある。今回は、誤嚥性肺炎に対する早期改善、再発予防を目的とした院内活動を行うことで、入院期間の短縮や再発予防を図っていく事とした。

2. 研究の目的

当院に入院する誤嚥性肺炎患者に対して、RST、NST が共同して評価・指導をすることで、早期改善、再発予防を図る。

3. 研究の詳細

(1) 研究の方法

2017～2018 年度に当院に入院した、誤嚥性肺炎患者と 2019 年に評価、指導を行った誤嚥性肺炎患者の 2 群を対象とする。2 群間において在院日数、再発率の比較を行う。また嚥下機能等の評価は i-EALDs を用いて指導の参考とする。病棟看護師へのアンケート調査も実施する。

(2) 倫理的配慮

倫理的配慮に関してはヘルシンキ宣言に則り、研究実施に係るデータ類を取り扱う際は、被験者の秘密保護に十分配慮する。研究結果を公表する際は、被験者を特定できるデータを含まないようにする。データは研究実施者が厳重に管理する。

4. 目標症例数と研究期間

(1) 目標症例数：20 例

(2) 研究期間：承認日～2020 年 11 月 30 日

5. 研究責任者連絡先

研究責任者 リハビリテーション科 理学療法士 成宮 久詞

研究分担者 看護師 廣瀬真理子

看護師 岩島さやか

臨床工学士 中田啓介

管理栄養士 橋本寿美子

管理栄養士 中川恵

医師 高戸葉月

医師 武田仁浩

TEL 076-252-2200(内線 2262)